

イワクラ(磐座)学会設立記念大会レポート

高橋 政和

平成十六年五月十五日、奈良県新公会堂にてイワクラ

(磐座)学会創立記念大会が開かれた。大会初日には発起人や一般の参加者を含め、およそ370名が参加。12時30分から13時20分まで

設立総会が会員、発起人の間で行われ、その後休憩を挟んで16時40分まで記念大会が行われた。以下その記念大会の内容を記す。

布目和太鼓とシンセサイザ

山添村青年団とシンセサイザー奏者藤井哲子さんによるそれぞれの演奏、コラボレーション演奏があつた。打楽器による音楽とは最も原始的な形態であり、対してシンセサイザーによる演奏は

最新の技術を駆使した最先端の音楽。古代の人々の遺した磐座を、現代を生きる我々が最先端の知識と技術によつて研究していくとする当学会の創立大会のオープニングセレモニーとして相応しい物であった。



立が世界に対して謳われた。調で、長野県の縄文考古学的価値の高さについて事例を交

名誉会員挨拶

田中康夫長野県知事

時折笑いを誘う和やかな口調で、長野県の縄文考古学的価値の高さについて事例を交

茂在寅男東京海洋大学名誉教授



いであるイワクラ学会が奈良の地で創立されたことは非常に喜ばしいことである」とのお祝いの言葉を頂いた。

開式の辞

その後、鈴木旭学会副会長による開会の辞がなされた。この瞬間にイワクラ学会の創

記念講演

渡辺豊和「新石器文明の構図」

紀元前の大河文明における世界規模での巨石文明から日本の縄文時代における巨石文明の事例へと論を展開して紹介された。

実際に見た数多くの事例を

元に、「文書は原典に当たれ。写真ではなく現地を踏め。事実とされていることを鵜呑みにするな」という趣旨の発言をされた。



クラ学における重要な研究テーマの一つである」とも語られた。

「星を模した物で最も精密な物はエジプトのピラミッド群」であり、この国内でも鍋倉渓など天空の星空を模した巨石遺構と目される物が実際に存在する。巨石は地球のツボに施された一種の治療施設であり、かつ天空の空に辿りつけない未成仏の靈のために作られたのではないかとの論を展開、それゆえに「地上のイワクラ、巨石群は星空を模した物なのである」と結ばれた。

ボに施された一種の治療施設

そこが信仰の場であったとは言えない。その磐の周りを発掘し、勾玉などの祭器が多く発掘されてこそ、その磐のあつた場で人々の信仰が存在したことの証明となる」との趣旨であつた。「夢物語だけを追ついても研究は進まない」と導入を結ばれた。

磐座は国内では往々にして

神様に結び付けられるが、路傍の摩崖仏に見られるように、大きな岩に仏様を彫った物も多く見られる。神様の世界だけではなく仏様の世界から見た側面をも見ていくべくだと発言。その仏様から磐座を見たときの事例の一つに、「見なしの舍利」という物が出てくる。

お釈迦様が亡くなつたとき

のお骨、お舍利を世界中の人々が欲しがつた。だが骨をどんなに細かく碎いても分配できる数には限界がある。そこで後からお釈迦様が入滅された場所を訪れた熱心な信者は、そこに存在した小さな石を舍利として自分の国へ持ち帰つた。これが「見なしの舍利」と呼ばれる物で、お寺を建てる時に最初に敷地内に埋めると大事な物となるとのこと。そして元々神の国であった日本にそのお舍利が入つてくる事となつた歴史的背景をわかりやすく語られた。

「これからも大きな磐の研究は目に見えてわかりやすいため、大勢の研究者がこれらも出てくると思います。そこで忘れてほしくないのは、そういう小さな石にも信仰の歴史は存在するし、研究や学問の対象からその存在を無視してしまっては避けたほしい」との趣旨の発言をされた。

「石の大小、一方だけやつてもダメです。両方を取り混ぜて研究をする事で、イワクラ学会ももつと大きな学会になるでしょう」との言葉で講演を結ばれた。

水野正好

「磐座と社寺・小石と舍利」と

また「組み合わされた巨石の内部が斜めに分断されている。これは現代のコンピュータで解析しても設計手法がわからない」といった事例を交え、超古代に存在した文明が非常に高いレベルにまで発展していたことを前提に、「なぜ超古代の巨石文明が繁栄していた頃、戦争と呼ばれるものが無かつたのか。これがイワ

ク講演に先立ち、國學院大學の大場磐雄先生の全国の磐座群に関する祭祀学的研究に対する研究姿勢についてお手本とするべきだと話された。曰く、「大きな岩があるだけでは

イワクラ学会会報

イワクラ(磐座)学会設立記念大会レポート

5